
紅い月

ロースト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅い月

【Nコード】

N2981M

【作者名】

ロースト

【あらすじ】

月というのは太古より魔力があるとされる。

紅い月、満月というのは人の狂うことを余儀なくされる。

とか文句垂れときながら効果音は苦手です。

紅い月

任務になれば途端にスイッチが入れ替わり、豹変する。
冷酷に、無常に、こなす。

慈悲を求める声あれど、非情さを求めるから。
非常を日常にして。

答えず、応えず、堪えず。確実に『処理』する。
単調に『作業』する。

殺すなんて簡単だ。実に容易。
ただ、凶器を翳し、当て、動かす。それだけの動作。
血が溢れ出す。赤い噴水。

どぴゅ どぴゅ どぴゅうつうつうつ

夜に浮かぶ月が暗い空間を照らし出し、曝け出す。
紅い、紅い、水たまり。

興奮に、恐怖に、身体が意思に関係せず震える。

「帰ろう」

声が響いた。

誰もいない、場所に。

優しく抱きしめられて、体温を感じる。

心臓の音が聞こえる。

生きてる証

「大丈夫。大丈夫だから……」

繰り返し言われる言葉に、安心をもたらす声に緊張が、抜ける。
意識は暗く、閉ざされて、思考は停止する。

「まだ、壊れないでね」

響く声は冷たく、

「君にはまだ、働いてもらわないといけないんだから」
出される言葉は残酷

俺はそれ知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2981m/>

紅い月

2010年10月21日10時52分発行